

静教研音楽部報

第 68 号
令和 8 年 3 月 発行
静岡県教育研究会
音楽教育研究部事務局

音や音楽と豊かに関わる

音楽教育研究部長 小田 泰子

「音楽は私たちの心を支えている」といったら、少し大げさでしょうか？ 私には、そう実感した出来事がありました。それは、数年前の歯医者でのこと。私は、治療をほったらかしていた後ろめたさと治療への恐怖を抱え、最悪の気分で行合室にいました。すると、聴こえてきた

ちで治療を受け、その後、『華麗なる大円舞曲』で会計を済ませて踊りたいような軽やかな気持ちで帰路についたのでした。この三十分程度の出来事により、私は「音楽はこれほどまでに心を左右するのだ」と実感することに至りました。

のは、ショパンの『軍隊ポロネーズ』。勇ましいメロデーと馬で堂々と行進しているような力強いリズムを聴いているうちに、何かに立ち向かうような気持ちちが沸き起こってきた。そして「よし、この難局を乗り越えてやる」といった「挑む」気持ちで心が満たされたのです。『軍隊ポロネーズ』に背中を押されて診察室に向かった私は『雨だれブルリュード』を聴きながら、ゆったりとした気持ち

私の場合は、少し笑ってしまいうようなエピソードですが、こうした音楽の力が、多くの人々が困難な状況に陥った時にも、発揮されたという事例もあります。

東日本大震災の直後にラジオから流れてきた『アンパンマンのマーチ』が被災地の子どもを笑顔にしたという話が、教科書には載っています。

音楽は、楽しいときには私たちの心をより一層幸せにし、悲しい時には、優しく隣に寄り添ってくれます。音楽は、「私たちの心を支える頼りがいのある存在」なのです。

学習指導要領の小学校音楽科の目標には「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す」とあります。

音楽を聴いたり、演奏したりと様々な音楽活動を通して、心が動く体験をすることで、音や音楽との豊かな関わりは深まります。そうした経験をたくさん積み重ねた子どもは、例えば、緊張を強いられた場面で音楽を聴いて心を和ませたり、音楽から勇気を得て新たな一歩を踏み出したりと、音楽を心の支えとし、日常を豊かに、より深く感動に満ちたものに変えていけるはずです。

音楽のもつ力のすばらしさを信じ、生涯にわたり音や音楽と豊かに関わっていける子どもの育成を目指して、共に、研修を深めて行きましょう。



静 東

■夏季研究大会

【駿東・沼津地区】

研究主題

「広がれ音楽 豊かなかわり
つなげる学び」

- ◆期日 令和七年八月六日(水)
- ◆会場 沼津市民文化センター
- ◆内容 午前 分科会
午後 講演会

「広がれ音楽 豊かなかわり
つなげる学び」をテーマ
に、県内各地から三百名超の先
生方にご参加いただき、夏季研
究大会駿東・沼津大会を開催し
た。

午前中は三つの分科会ごとに
二本の研究発表・協議を行い、
日々の音楽実践について語り合
うなど会場は熱気に包まれた。

午後は小ホールに於いて全体
会を行い、沼津市教育委員会の
奥村篤教育長様のご祝辞と沼津
市歌独唱に拍手が沸き起こった。

講演会

◆演題

「響き豊かな声で歌おう
歌詞を理解し楽曲の組み立て
を知ろう 心を開く授業を進

めるために」

◆講師 作曲家・合唱指導者

山崎 朋子氏

今年度は、作曲家の山崎朋子
氏を講師にお迎えし、ご講演い
ただいた。山崎氏が作詞作曲し
た合唱曲を、作曲のエピソード
や曲に込められた思いを交えな
がら、音楽の授業をどう進めて
いくかについて、お話しいただ
いた。山崎氏のピアノに合わせ
て合唱する時間は、歌詞や楽曲
の構成を理解しながら音楽をつ
くり上げる楽しさを体感するこ
とができた。会場いっぱい広
がる歌声とともに、学びと喜び
を共有できたひとときとなり、
幸せを感じられる素晴らしい講
演会となった。

分科会(小学校一〜三年生)

●研究テーマ①

「自分なりの思いをもって伝え
ようとする授業づくり」

- ◆発表者 下田市立稲生沢小学校
鈴木 めぐみ 教諭

子供たちが思いをもって主体
的に学べるように総合的な学習
の時間等とクロスカリキュラム
を組み、三年生で実践した。

自分たちでつくったCM音楽
を町の役場の人に聴いてもらう
という目的を明確にしたことで

子供たちの意欲が高まり、見通
しをもって創作活動ができた。
自分たちで訪れた場所を表現す
ることで、意識が高く、思いを
もって取り組むことができた。
また、ロイロノートやクロック
ミュージックを活用することで、
客観的な視点をもって、創作活
動に取り組むことができた。

グループ協議・情報交換

子供たちの生活と学習を結び
つけ、生活を豊かにするための
工夫について、教科の垣根を超
えた横断的な指導をしていくに
はどうすればいいかという視点
で話し合いが行われた。

子供たちの生活と学びが結び
付いている素晴らしい実践だっ
た。子供たちは、制限がない状
態で音楽をつくるのは難しいと
思う。しかし、今回の実践では、
共通事項を絞って題材を構想さ
れたので、子供たちも意欲的に
取り組むことができていた。

指導・助言

- ◆助言者 下田市立下田小学校
渡邊 柳一 教頭

技能ばかりにとらわれず、
「音楽の授業を通して音楽を好
きになってほしい」という気持
ちで授業づくりを行うことが大
切。今回の実践の中で行われた
クロスカリキュラムは、教師も
子供も周りとの関わりが生まれ

やすく、考えを広めたり、深め
たりしやすい。教科の枠組みを
踏まえて育成する、ゴールを明
確にした題材構成が大切。

●研究テーマ②

「音楽的な見方・考え方を働か
せて音楽を楽しむ子の育成」

- ◆発表者 熱海市立桃山小学校
藤本 明香 教諭

音楽を形づくっている要素を
土台として音楽的な見方・考え
方を働かせると音楽が楽しくな
るということに気づき、一〜三
年生で実践した。

子供たちが表現したくなるよ
うな場面を設定したり、つくっ
た音楽を聴き比べる場を設定し
たりすることで、音楽のもとを
意識して音楽づくりを行うこと
ができた。しかし、拍について
は課題が残った。

グループ協議・情報交換

音楽はどうしても専科の先生
に任せてしまいがちなので、同
じ地域の方とグループで研究で
きたことはよかった。研修の日
常化がとても大切だと感じた。
年齢や在籍年数など関係なく、
音楽の授業を担当する教師をつ
ないでいき、引き継いでいくこ
とが大切だと感じた。



指導・助言

◆助言者 沼津市立開北小学校
坂本 啓 教頭

小学校低学年の児童は、音楽
を感覚的に捉えることが多い。
そこで、教師が音楽の要素を言
語化することで支援していたこ
とがよかった。表現活動と聴く
活動を繰り返し行っていた。客
観的な視点をもつことができ
るとともに、メタ認知の育成にも
なる。多様な題材での実践を市
内のフォルダやクラウドに残す
ことで、誰もが取り組める環境
をつくることも重要である。

分科会(小学校四〜六年生)

●研究テーマ①

「豊かな表現につながる知識技
能の定着を目指して」

- ◆発表者 三島市立東小学校
原 聡子 教頭

授業の導入でモジュール的に
音名や調の練習を積み重ねるこ
とで、音名が読めるようになり
その後の活動がスムーズになっ
た。また、音の高さ感覚を身に
付けることができたので、音楽
の山を見つけ、どこを盛り上げ
るかという表現につなげること
ができた。さらに、音の高さや
音符の種類、メロディーや歌詞

などを根拠にすることで、曲想をイメージし、思いや意図をもちやすくしたという成果を得られた。一方で、音符や音の高さ、歌詞や和音進行など、一度に全てのことを意識しようとすることでは迷いにつながり、生き生きと演奏できない子もいたという課題が見られた。

グループ協議・情報交換

固定下に加えて移動下を指導する考えもあるが、現実的には子供が混乱するため、固定下にしばって指導したことで定着につながった。音名を理解できない子へは、繰り返しアプローチしていくことが必要。授業の時間配分を意識し、他の要素もバランスよく取り入れていくことが大事。

指導・助言

◆助言者 三島市立北中学校

津金澤 優子 教頭

知識・技能の定着が目的ではなく、あくまで手段であり、豊かな表現が目的である。音楽を形づくる要素を根拠として子供が表現の理由を言うことができていることが良い。創作の活動でも、自分の思いを表現できるようにになっている。実践例では、個別最適な学びと協働的な学びを繰り返すことで学びが深まっている。強弱記号を分析す

るだけで合唱が変わっていくこともある。少ない時数で能率よく授業を進めることがカギとなる。

●研究テーマ②

「自分の思いや意図をもち、いきいきと音楽を表現できる子供たちの姿を目指して」

◆発表者 函南町立西小学校

水野 明世 教諭

まず、曲のイメージについて考える時間を設定し、どのような音楽にしたいかを考える手立てとした。また「音楽を特徴付けている要素」に注目しながら、簡単な曲を演奏する帯活動を実践した。さらに、友達と意見交流する場面を設定し、ワークシートを活用して交流前後で思いに変容があったか視覚的に捉えられるようにした。

強弱カードを使うことで、自分のもったイメージを音で表現する楽しさを感じる子供たちが増えた。要素に注目しながらのグループ練習では、音楽は複数の要素が合わさることで、曲想を豊かに表現できると感じながら取り組んでいた。

グループ協議・情報交換

めあて・振り返り時間の確保についての質問では、繰り返し行うことができるようになって

きたが、時間の確保は課題だと感じているとし、子供たちが進んでめあてをもてるような前時からのつながりと導入を工夫したい、とのことだった。

指導・助言

◆助言者

静東教育事務所地域支援課

森 佐和子 参事

音楽に関わる資質や能力は子供たちの内側にある。教師はその資質能力を引き出していくことが役目である。内側を揺さぶる音楽の授業を日々実践していくことが大切となる。

多様な感じ方に出会うことで、知識を習得するだけでなく、思考判断表現につながり、主体的に音が向き合う活動となった。「なぜそう感じたの。」と問うことで、さらに深まりが出てくると期待している。授業者がじっくりと教材研究をすること、子供が主体的に音楽に関わることができる。教材研究と温かな子供理解がベースとなり、子供主体の「～したい。」の授業が生まれてくる。一方、音楽の得意な子に圧倒されて、あきらめてしまう子がいる。その時には、個別に音にしてみたり、先生に聞いてもらったりするという時間を少しでも作っていくことが大切である。

分科会（中学校）

●研究テーマ①

「生涯にわたって音楽を愛好する心を育てる」

◆発表者

富士市立吉原第二中学校

鈴木 知夏子 教諭

楽しむためには、～したいという意欲や技術の向上が大切だと考えている。成功体験を積み重ね、苦手意識や表現力をより向上できるのではと考え、①適切な選曲②ICT③作曲者の意図を汲み取る活動の三点を軸に実践した。

①『きみとともに』を合唱祭後から卒業式までの期間に授業で行った。歌詞の音読で曲想を感じ取り、曲の背景を読みとっていった。

②Chrome Music LabのSONG MAKERを用いて、旋律の視覚化を進めた。

③強弱記号と速度記号の予想をするため、楽譜の記号を消し、旋律や歌詞との関わりから、作曲者の意図を考える活動を行った。ロイロノートのゲームモード機能を活用し、クイズ形式で楽しみながら、強弱記号を考ええる実践も効果的であった。無記名で振り返りを共有するのもよい実践だと感じている。

成果として、表現したい気持ちは高まったが、技能と並行し

て習得していくことが大事だと感じた。知識と雰囲気の実感を結び付けていくことも大切である。例えばBの意味が半音下がる、でなく、そこからどのような曲想の変化があるのかを感じ取ってほしい。生徒同士の対話にするために、並び方の工夫やICTの画面に向き合うタイミングを精選する等、さらに授業を工夫していく必要がある。

グループ協議・情報交換

ICTの活用によって、寡黙な生徒が思いを表現できる可能性がある。感想用紙を生徒同士でも共有する方法を試行錯誤することが大切である。音楽を形づくっている要素を複数意識しているかを評価している。強弱や形式の視点から等、根拠をもつことが大切である。

指導・助言

◆助言者 富士市立須津小学校

横田 聖 主幹教諭

『きみとともに』は歌詞と旋律の抑揚が美しいことから、ねらいと一致している教材であり表現・創意工夫にとっても適した曲である。今の子供たちの環境下はデジタルに溢れているからこそ、アナログの良さをさらに追求してほしい。

●研究テーマ②

「音楽のよさや美しさを、対話を通して深め、よりよい表現を目指す生徒」ことも主体の授業を目指した学びの伴走者としての教師の手立て」

◆発表者

富士宮市立富士宮第四中学校
砂子坂 真美 教諭

教師主導でなくとも子供が音楽の魅力を探求するためにはどうしたらいいか考え実践した。

鑑賞の授業では、活動に消極的だったため、音楽のよさを見つけようという思考の基盤をもつことや伝える難しさ、相手側の聞く姿勢が課題なのではないかと考えた。そこで、鑑賞5w1hフレームワークを取り入れた。

いつ…○分○秒

どこで…○小節目

誰が…自分・友達

何を…楽曲の○○

なぜ…要素の説明

どのように…感じた背景

鑑賞の授業『曲の魅力を伝えるアンバサダーになろう！』では、鑑賞の題材曲『ボレロ』を通してGoogle Classroomで

ファイル共有したり、イヤホンを用いたタブレットでの鑑賞の集中力を高める工夫をしたりして、根拠のあるプレゼンテーション活動ができたと考え

る。創作の授業『リズムで語れ！

魅力あふれるリズムアンサンブルを作ろう』では強弱やリズム

の変化の視点を立て、自分の考えた創作ポイントを伝えたり、グループの良いところを取り入れたりする工夫をした。

歌唱『最高温度の合唱を届けよう！』想いが伝わるマル秘テクニクを発見しよう』では『夢の世界を』を題材曲に、歌詞や強弱、リズムなどが記入されたワークシートを通して、根拠をもった対話活動をした。

グループ協議・情報交換

多様な子供の学びを丁寧に見取り支援する方法では、掲示物の工夫や、中1・2のワークシートを振り返るプリントの掲示や保存が大切だという意見があった。

指導・助言

◇助言者 富士宮市立上野中学校 平野 由孝 校長

【賀茂地区】

一 研究テーマ

「広がり音楽 かかわりから生まれる 豊かな学び」

令和七年度 賀茂地区重点

「主体的に関わり合おうとする子が育つ授業づくり」

二 活動内容

(一) 実技研修会

◆期日 八月二十二日(金)

◆会場 東伊豆町立稲取中学校
◆講師 J C D A 日本合唱指揮者協会副理事長、一般財団法人オペラアーツ振興財団事務局長 藤原 規生 先生

◆演題 「科書題材の合唱曲を用いた合唱指導方法」

藤原 規生 先生

◆演題 「科書題材の合唱曲を用いた合唱指導方法」

◆期日 十一月十七日(月)

◆授業者 稲取中学校 山崎 暖 教諭

◆題材名 「旋律や音色に注目しながら、情景を思い浮かべて音楽を楽しもう」

◆演題 「科書題材の合唱曲を用いた合唱指導方法」

◆期日 十一月十七日(月)

◆授業者 稲取中学校 山崎 暖 教諭

◆題材名 「旋律や音色に注目しながら、情景を思い浮かべて音楽を楽しもう」

◆演題 「科書題材の合唱曲を用いた合唱指導方法」

◆期日 十一月十七日(月)

ら、「歌唱指導の基本について分かりやすく話してください」だったので、大変参考になった」「こんな風に授業ができた方がいいなと思った。自分でも楽しみながら学べる授業を目指したい」等、二学期からの授業に生かしていこうとする前向きな感想が聞かれた。

今回の実技研修では、教科書題材を使った魅力ある授業づくりについて学ぶことができた。日々の授業を改善していくために、藤原先生から「授業で活用できる楽しいしかけ」をたくさん教えていただいた。子供たちの人生がより豊かになるよう、心を育てる音楽の授業を実践していきたいと感じた。

(二) 授業研修会

◆期日 十一月十七日(月)

◆授業者 稲取中学校 山崎 暖 教諭

◆題材名 「旋律や音色に注目しながら、情景を思い浮かべて音楽を楽しもう」

◆演題 「科書題材の合唱曲を用いた合唱指導方法」

◆期日 十一月十七日(月)

◆授業者 稲取中学校 山崎 暖 教諭

◆題材名 「旋律や音色に注目しながら、情景を思い浮かべて音楽を楽しもう」

◆演題 「科書題材の合唱曲を用いた合唱指導方法」

◆期日 十一月十七日(月)

は、音色や旋律を中心とした探究活動を行うことで、音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じていた。それらの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価や根拠についてワークシートにまとめた。特に音色については、演奏楽器の異なる旋律を聴き比べ、感じ取った特徴をグループ内で発表し合った。

グループ内で発表したこと、クラス全体でロイロノートを使用して共有したことで、音色についての理解も深まった。創作では、自分たちの「四季」を作曲するために、楽器の音色や曲想が生かされた旋律について考えた。そこで、カットカトーンを使用して、四人グループで一つの季節(メインテーマ)を決め、季節に関連する言葉(サブタイトル)を個人で決めた。その際、画像を用意したことで、曲のイメージをグループで共有でき、旋律や表現の仕方の工夫に協働して取り組むことができた。子供たちが主体的に関わり合う授業実践であった。



【東豆地区】

《伊東市》

一 研究テーマ

「思いや意図をもって音楽活動に取り組み子供を育てる授業」

二 活動内容

(一) 夏季実技研修会

- ◆ 期日 八月七日(木)
- ◆ 会場 伊東市立南中学校
- ◆ 講師 小林 真人 先生
- ◆ 内容 「小林真人先生と歌おう」曲にこめられた思いを感じて」

作曲家小林真人先生をお招きし、楽曲にどのような思いを込め、作曲されたか、お話を聞いた。また、先生の作った楽曲を、先生のピアノ伴奏で実際に歌うことで、参加者は改めて音楽の楽しさを実感することができた。

この実技研修会で学んだことを今後の指導に生かしていこうという意欲が高まった。

(二) 秋季研究部会

- ◆ 期日 十一月十二日(水)
- ◆ 会場 伊東市立門野中学校
- ◆ 授業者 掬川 ふみ代 教諭
- ◆ 題材名 「作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を味わおう」

門野中三年生による鑑賞教材「ブルタバ」の授業を参観し、事後研修会を行った。多くの生徒が本時のねらいに迫れたことから、作曲者の意図や思いに迫る手立てとして、ICT機器の活用は大変有効であることが検証できた。

鑑賞の授業作りについて考える良い機会となった。

《熱海市》

一 研究テーマ

「音楽的な見方・考え方をはたらかせて音楽を楽しむ子の育成」

二 活動内容

(一) 夏季研修会

- * 自然天災のため冬季へ延期
- ◆ 会場 熱海市立熱海中学校
- ◆ 講師 筑波大学附属小学校教諭 平野 次郎 様

(二) 授業づくり研修会

- ◆ 期日 十一月十二日(水)
- ◆ 会場 熱海市立桃山小学校
- ◆ 協力 教育出版社
- ◆ 内容 教科書の改訂に伴い、新しい教科書の効果的な活用方法について、教科書会社の担当者を招いて説明会を行った。説明では、授業づくりにおける指導の視点や工夫について整理がなさ

れた。また、楽曲の選定にあたっては、時代やジャンル、国や文化の多様性を考慮しつつ、子供たちが親しみやすく、音楽の奥深さを感じられるものを選びだれていることが示された。さらに、音源の選び方に関する説明を通して、教科書の構成や題材配列、学習のねらいとの関連について理解が深まった。

【田方地区】

一 研究テーマ

「豊かな感性 広がる音楽」
「主体的に表現したいという子供の姿を目指して」

二 活動内容

(一) 音楽実技研修会

- ◆ 期日 八月四日(月)
- ◆ 会場 函南町立東小学校
- ◆ 講師 富澤 裕 先生
- ◆ 演題 「合唱指導について」

子供たちが楽しく声を出せるような発声指導や授業づくりについての講演であった。発声の仕方や、体の使い方、拍に乗って歌う合唱指導は、実際の授業ですぐに実践できる内容であり、大変勉強になった。さらに、曲に対する作曲者の思いを富澤先生から直接伺うことができ、子供たちに伝えたい気持ちが高

まった。テンポの良い講義で、先生方にも大好評で大変充実した研修会となった。

(二) 田方地区一斉授業研究会

- ◆ 期日 十一月十二日(水)
- ◆ 授業者 函南町立西小学校 長倉 愛江 教諭
- ◆ 助言者 伊豆市立熊坂小学校 工藤 愛 教諭
- ◆ 題材名 「豊かな表現」曲の主人公になつて歌おう」
- ◆ 教材名 「夢の世界を」 「冬げしき」

子供たちが曲に抱いたイメージ(きれいな夕日を見ている感じ・未来に向かって突き進む夢の世界を)を歌唱で表現する授業であった。自分たちの思いを互いに話し合い、音程に気を付けて強弱を工夫し、自分たちの表現したい歌になるように練習を進めた。聞き役を交代して感想を述べ、自分たちの課題を明確にし、主体的にグループ活動に取り組むことができた。

授業後のグループ協議では、子供たちが曲に対する思いをもって歌唱活動に取り組む姿が見られ、自身の授業でも実践していきたいという意見があった。そして、日頃の歌唱指導で工夫をしていることを先生方と共有し、歌唱指導について大変勉強になったという声も聞かれ、充実した研修会となった。

【三島地区】

一 研究テーマ

「楽しく音楽と関わり、思いをもって表現する子の育成」

二 活動内容

(一) 夏の研修会

- ◆ 期日 七月二十三日(火)
- ◆ 会場 三島市立北小学校
- ◆ 講師 富澤 裕 先生

三島地区では、歌唱指導の向上を目指すとともに、音楽を楽しむ心情を高めることを目的として、作曲家・指揮者 富澤裕先生をお招きし、合唱指導方法についての実技研修を行った。

どの子も安心して生き生きと歌うための環境づくりとして、二人組になって向かい合い、顔の前で両手の甲を合わせて微笑み合う活動を行った。ほんの少しの活動で、緊張していた雰囲気が一気に和み、のびのびと歌唱したいと思える場づくりの大切さを体感することができた。

富澤先生編曲の「COSMOS」や「いのちの歌」を参加者みんなで合唱し、言葉に込められた思いを理解し、言葉に命を与えて歌うことで、より深みのある合唱にすることができた。参加した教員から、「どの子も生き生きと歌いたくなるような声か

けや歌唱指導の技を教えていた
だき、大変参考になった」「思
いをもって言葉を表現すること
で、合唱が大きく変わるという
ことを実感することができた」
等、今後の指導に生かしていこ
うという意欲が高まった研修と
なった。

(二) 秋の研修会

◆期日 十月二十一日(火)

◆会場 三島市立西小学校

◆講師 教育出版株式会社

音楽担当者

使用していた教科書の出版社
が「教育出版株式会社」に変更
になったことを受け、市内小学
校十四校・中学校七校で新教科
書についての研修を行った。

今回は、教育出版株式会社の
方をお招きし、効果的な活用方
法について情報を教えていただ
いた。授業の中で教員が使いや
すい機能や、児童に提示したり
ワークシートとして配布したり
することが効果的な機能を示し
ていただき、実践しながら機能
を確かめた。

また、近隣の小中学校ごとに
音楽の授業の様子を情報交換
し、授業で工夫していること
や、デジタル教材の使い方につ
いて紹介し合った。さらに、小
学生が中学生に向けてつきたい
音楽的資質などを共有すること
で、小学校六年間に求められる

力を再確認することができた。

【富士地区】

一 研究テーマ

「生涯にわたって音楽を愛好す
る心を育てる」

二 活動内容

◆発表者 吉原第二中学校

◆助言者 中井 知夏子 教諭

◆横田 聖 主幹教諭

子供たちの実態に合わせて題
材構想を練り、校内行事などと
結び付けて楽曲選定を工夫した
ことで、子供たちの音楽に対す
る苦手意識が軽減された。ま
た、自分の思いを表現すること
で、達成感を味わいながら学習
を進めることができた。そし
て、強弱や速度の記号を予測す
ることを通し、曲の解釈や個々
の歌唱表現に対する思いを深め
ることができた。その上で、作
曲者の意図と子供たちの思いと
のずれから、自然な対話を促し
たり、新たな気付きを生んだり
することができた。そこで得た
気付きや曲の解釈が、子供たち
の表現に対する思いを一層強め
る一助となった。

分科会参加者からはICTの
活用について意見が出された。

タブレット上で楽譜に書き込み
をすることで、細かい分析が可
能となり、個々にとって分かり
やすい資料となった。また、共
有のし易さが向上したことが話
題に挙がった。他にも、タブ
レットアプリを使用してクイズ
を作成したことで、関心を高め
ることができた。

助言者からは、創意工夫につ
いて、必要な指導とはどんなも
のか、御意見をいただいた。楽
曲から感じたことと楽譜上に書
かれていていること(知覚と感受)
を分けて捉えながら、それをつ
ながっていく指導が必要である。
また、作曲者の意図を理解した
上で、捉えた解釈を自分たちが
どのように表現していくかを考
える過程が思いを表出する場面
となり、個々の創意工夫へとつ
ながっていく、と御助言いただ
いた。



静岡

一 研究テーマ

「知覚・感受を通して、自分
たちの声や音にこだわりをも
ち、それを『表現できた』とい
う実感につなげる授業」

二 活動内容

(一) 音楽科指導研修

◆期日 七月二十八日(月)

◆会場 静岡市教育センター

◆講師 静岡大学

◆長谷川 慎 教授

◆演題 「音楽科における箏の
演奏を基盤とした我が国の
伝統音楽理解 ―口唱歌・
奏法―」

小学校、中学校における新学
習指導要領では、伝統や文化に
対する教育の充実が唱われ、音
楽科では、唱歌や和楽器などの
日本の音楽の指導の充実が求め
られている。

本研修では、子供たちが箏や
箏曲に触れることで、和文化や
日本のよさを考える機会となる
ことを学んだ。日本の伝統文化
を尊重する態度を育成すること
は、国際社会の発展に寄与し、
グローバル化に対応する力の育
成につながっていく。そのこと
から、箏や箏曲に親しみをもち、その「よさ」を味わうこと
ができる感性を育成すること
は、日本音楽への興味や関心をも
つこと、理解することにもつ
ながっていく。また、音楽教育
を通して、日本の伝統文化に愛
着をもった子供を育成する必要
性を学んだ。

(二) 教科指導力向上研修

◆期日 十月二一日(火)

(駿河区・清水区)

十一月六日(木)(葵区)

◆会場 静岡市立大谷小学校

静岡市立清水岡小学校

静岡市立西奈中学校

三校において、六年生と四年
生、中学一年生の三つの授業公
開を通して研修を行った。

六年生は、「役割を決めて音
階をもとにした音楽をつくら
う」という題材で授業研修を
行った。五音音階または全音音
階、ドリア旋法をもとにして、
「ドローン」と「オスティナ
ト」を重ね、その上で旋律が即
興的に呼びかけ合う形で音楽を
つくる活動を行った。実際に楽
器の音で試行錯誤しながら活動
したり、教師が適切に価値づけ
したりすることで、グループの
思いや意図が明確になり、ま
まりのある音楽づくりの工夫に
つながった授業であった。

四年生は、「とんび」を題材
に授業研修を行った。「とんび」

の『ペンヨロー』の旋律に着目し、グループに分かれて歌い方を工夫する活動であった。一人ひとりがどのように歌いたいかという思いや意図を明確にもち、友達との交流の視点を明示したことで、自分たちの歌い方にこだわりのもった対話活動を行うことができた授業であった。

中学一年生は、「赤とんぼ」を題材に授業研修を行った。旋律と強弱の結びつきや、旋律と言葉の抑揚との関係などを感じ取り、歌詞がもっている詩情を味わいながら歌唱表現を創意工夫することをねらいとした活動であった。一人ひとりがどのように歌いたいか、思いや意図を明確にもち、歌い方にこだわりのもった取り組みができた授業であった。

静西

【志太地区】

一 研究テーマ

「広がれ音楽 豊かなかわりつながる学び」

二 活動内容

(一) 志太教育研究集会

◆期 日 八月一日(金)
◆会 場 藤の瀬会館

焼津・藤枝・島田の三市から百九名が参加して開催した。中学校一校の実践発表、及びグループ協議を行った。また、パークセッション奏者山本晶子先生を講師に招き、実技講習会を行った。

◆実践発表(中学校)

「知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことのできる生徒の育成」

◆発表者 高洲中学校

田中 陽子 教諭

共通事項を根拠に作曲者の意図について考え、他者と対話をする活動を積み重ねることにより、自己の思いをもって音楽のよさや美しさに自分なりの思いをもって聴くことができるようになるだろうという仮説を立て、鑑賞(交響詩『ブルータバ』スメタナ 作曲)の実践が紹介された。スメタナの思いにより迫るために、音楽の要素がどのように働いてスメタナ自身が記した表題を表現しているのか、生徒たちがグループに分かれて共通事項「音色」「旋律」「リズム」「強弱」「速度」を手がかりに考察し、個人で気づいたことや考えたことを仲間と共有し、さらに考えを深めていく様子がわかる授業の動画も紹介された。共通事項を作曲者の意図を

考える根拠にするよう指示したことで、一人ひとりが個人で「自ら思考する」ことにつながったことや、グループでの伝え合いの中で自身の思考の根拠が明確になり、自信をもって考えを伝えることにつながったという成果が紹介された。また課題として、共通事項をよりわかりやすく提示する工夫や、生徒が自ら思考したい、伝え合いたいと思うような問いの設定についてさらに研修していきたいということも出された。

〈指導助言〉

増田 真弓 教育主査

(静西教育事務所地域支援課)
音楽科における深い学びにつながる題材構想について詳しくお話しいただいた。本授業の中で、共通事項との対話、先哲との対話、友達との対話、教師との対話など必要感のある対話は、深い学びにつながる対話の工夫である点などを評価していただいた。

〈実技講習〉山本 晶子 先生

(フラワービート代表)

小物楽器を使って音を合わせる楽しさ、リズムを作る楽しさを味わう実技講習を行った。

【榛原地区】

一 研究テーマ

「広がれ音楽 豊かなかわりつながる学び」

二 活動内容

(一) 教科等研修会

◆期 日 十月一日(水)
◆会 場 地頭方小学校
◆授業者 田中 千絵 教諭
◆助言者 相良小学校

中村 陽子 教頭

◆題材名

「どれみとなかよくなるう」

小学校一年生が、初めて鍵盤ハーモニカを扱う題材での授業が公開された。題材を通して行われる音遊びで、児童の音程感覚を養ったり、鍵盤に親しみをもちたりすることができるよう工夫されていた。まだ使い始めたばかりの鍵盤ハーモニカで、息の強さや鍵盤の押さえ方をいろいろな方法で試し、よりよい音で演奏することができるよう児童一人ひとりが真剣に取り組んでいた。本時では、音遊びで楽しく活動しながら旋律の特徴に気付くことが目標とされていたが、鍵盤ハーモニカで演奏する活動に多くの時間が使われていた。「どれみ風船」による音の変化を知覚する活動が取り入

れられていたが、事後研修では、発達段階を踏まえ、音の変化に合わせて身体を動かすなど、旋律の動きを全身で体感することができるよう活動により多く取り入れたいという意見が出された。また、活動内容の精選について盛んに協議され、「弾くことだけにとらわれてはいけない」「音楽そのものを楽しんでほしい」「演奏の技能もおそろやかにしたくない」「限られた時間の中で、知識や技能を確実に身に付けていくことに難しさを感じる」など、様々な意見が交わされた。

(二) 指導助言

中村教頭からは、幼児教育から小学校以上の教育へのつながりを中心に御指導をいただいた。幼児期には、遊びを通して、様々な習慣や生活に必要な技能、人との関わり方などを身に付けている。小学校に入ると、その生活の中心が授業へと変化し、教科に関する資質・能力を身に付けていくことが重視される。子供たちが意欲的に学び続けていくためには、学習の場が子供にとって楽しみなのである必要がある、今回授業を公開してくださった田中教諭も、「音遊び」を意図的に位置付けていた。中村教頭は、「子供たちにとっては遊びであっても、教師がきちんと意図をもち、内

容や時期を精査する必要がある」と仰っていた。

生涯にわたって音楽を楽しんでいくための、基盤をつくる音楽の授業について、地区の教員同士が意見を交わし、幼児期からのつながりを共通理解することができる貴重な機会となった。

【小笠地区】

一 研究テーマ

「広がれ音楽 豊かなかわりつながらる学び」

二 活動内容

(一) 一斉研究報告会

- ◆期 日 十一月十二日(水)
- ◆会 場 掛川市立千浜小学校
- ◆授業者 掛川市立千浜小学校 柴田 空楽 教諭
- ◆助言者 常葉大学教育学部 山口 亮介 准教授

(二) 柴田空楽教諭授業

絵に合う音を見つけ、音を組み合わせる活動を通して、いろいろな音のつなげ方を試しながら思いをもって自分たちの音楽をつくった。例示では、既習の「呼びかけとこたえ」「くり返し」を確認し、意識してつなげていくことの良さを共有した。児童は、楽器の音色や音楽を形

づくる要素に着目しながら、音楽づくりに取り組んだ。どのように入り組むと自分たちのオリジナル音楽になるか対話をしたり、実際に試したりしながらグループ活動を進めた。教師は、グループに対して「どうしてそれがいいと思ったか。」等と問いかけ、思いと音楽を形づくっている要素の関連に着目させた。授業後半には、いくつかのグループが演奏を紹介した。児童は良さを見つけながら聴き合うことができた。

(三) 山口亮介准教授講話

①音楽づくり：言葉音を音にして表す題材は、表現の楽しさを感じ取ることができるため、子供は意欲的に活動することができ。音色の違いを比べることで、音楽表現の幅が広がり、楽器の良さを生かした指導が子供の感性を育てる。そのために、教師は楽器の特性を理解し、それを授業に生かすことが大切である。

②授業づくり：目標の適切な設定やゴールを明確化し、個に応じた練習を促すことが重要である。できない時はできるところに戻り、少しずつ成功体験を積み重ねることができ、子供の自信を育てることができる。中学校においては、適切な条件と課題を設定し、無理のない支援を行う。また、学習意欲を高めるた

めには、ケラーのARCSモデルに基づいたアプローチが有効である。このモデルは、「注意」「関連性」「自信」「満足感」の4つの要素を取り入れることで、子供たちの学習意欲を引き出すことができる。音楽の授業では、「関連性」が特に重要となるため、音楽を通じて楽しさを感じたり、成功体験を積みだりすることで、学びの意欲が自然と高まる。

【磐田地区】

一 研究テーマ

「広がれ音楽 ひびき合う心とハーモニー」

二 活動内容 (地区別研修)

《磐田地区》

(一) 小学校研修会

- (小学校と中学校と別れて研修)
- ◆期 日 十月十七日(金)
- ◆会 場 磐田市立田原小学校
- ◆講師 一般社団法人 鍵盤ハーモニカLABO 岡本様 黒野様

◆演 題

「鍵盤ハーモニカ実技研修」

小学校の音楽の授業で扱う鍵盤ハーモニカの基本的な奏法についての御指導をいただいた。まず、構造や、子供たちが演奏

するときの吹き口の置き場や、授業でのルールについて学んだ。

ド・ミ・ソの一拍を使って演奏し、伴奏に合わせて優しく吹いたり元氣よく吹いたりした。今後の指導につながる大変よい内容となった。

(二) 中学校研修会

- ・講師 兵頭楽器店 伊藤 維左匡様

◆内 容

「ギター実技研修」
ギターの部分の名称やコードについての説明をしていただいた。

「かえるのうた」の曲を個人で練習し、全員で合奏や輪奏を行い、ストロークなど、様々な奏法についても学んだ。

《袋井・森地区》

(二) 袋井・森地区研修会 (第二回)

- ◆期 日 六月十三日(金)
- ◆会 場 袋井市立袋井南中学校
- ◆講師 教育芸術社 園原様 星様

◆演 題

「新教科書の内容と評価、活用について」

教育芸術社の新教科書に採用されているQRコードの活用方法についての説明と実践例について紹介があった。QRコードから実際に音を確認したり、

ワークシートを使用したりする方法について教えていただいた。今後の授業実践や教材提示の工夫で活用していくことができる内容だった。

(二) 袋井・森地区研修会 (第三回)

- ◆期 日 十月十七日(金)
- ◆会 場 森町立森中学校
- ◆講師 森中学校音楽部 市川様

◆演 題 「伝統音楽(箏)の指導について」

箏の奏法や楽曲の指導方法について、箏を実際に奏でながら学んだ。最初に小学校、中学校の校種別に分かれ、「さくらさくら」の演奏を通して児童や生徒に対しての指導方法を教えていただいた。後半では全体で合奏を行い、全体での合わせ方で留意することについて、確認することができた。



【湖西地区】

一 研究テーマ

「広がり音楽 豊かなかわり
つながる学び」

二 活動内容

(一) 授業研修会

- ◆期 日 六月十一日(水)
- ◆会 場 湖西市立鷺津小学校
- ◆授業者 鈴木 多恵子 教諭
- ◆題材名 「アンサンブルのみりよく」

六年生の題材「アンサンブルのみりよく」では、表現の工夫についてグループで考え、話し合ったことをもとに発表し合う授業を行った。

「交響曲第五番（運命）」の演奏を鑑賞し、指揮者や演奏者の違いによる演奏を聴き比べた上で、同じ曲でも強弱や速度など様々な表現の工夫があり、曲のイメージが変わることを知った。

そこから、思いや意図をもって自分たちも「ぼくらの日々」の中で、歌い方の工夫をしたいところを話し合い活動を通して考えた。

強弱記号や速度記号、表情記号などが対話と思考のためのヒントカードとして用意されていたため、言葉を選択しながら話

し合い活動を進めることができた。歌詞の内容にふさわしい歌い方や、旋律の特徴を生かした歌い方、強弱記号と歌詞の内容を結び付けた歌い方など、お互いの意見を出し合い、何度も歌って試す中でのグループもよりよい表現の工夫について考えることができた。

(二) 実技研修会

- ◆期 日 八月一日(金)
- ◆会 場 湖西市立岡崎小学校
- ◆講師 浜松学芸高校 中島 実紀 様
- ◆実技研修（歌唱指導）

声を出すための身体の仕組み、さまざまな発声練習、合唱指導についての研修を行った。

顔の筋肉や呼吸についての仕組みを知り、口の中の響かせ方を実践した。

また、変声中の音が取れない子供へのアプローチの仕方や混声合唱でのパート分け方法など、小学校高学年から中学生の合唱活動での日頃の悩みにも答えていただいた。ヴォイストレーニングについても、いろいろな方法を紹介していただいた。

すぐに実践できる内容で、今後の指導に大変役立つ研修会となった。

